

未来をひらく子どもの育成

一木太北部小スタイルを通して育む「みつめる」「かかわる」「つくりだす」力を土台として一

Ⅰ 研究主題について

(1) 「未来をひらく」とは

「ひらく」という言葉に、2つの意味を込めた。1つ目は、「子どもたち一人一人が心をひらき、互いに尊重し合う」という意味だ。子どもたちは、一昨年度までの取り組みにより徐々に自分の個性や考えを集団の中で発揮することができるようになってきている。そこで、令和5年度からはさらに、子どもたち同士がつながり、活動していくことで、新しい自分に気付いたり、集団の中で自分の力を発揮したりする姿を追い求めていきたいと考えた。

2つ目は、「みんなで新しい未来を切り拓く」という意味だ。様々な問題や課題に出合ったとき、自分たちで、新たな解決方法を見つけ出し、新しい道をきり拓く子どもを育てていきたい。

生徒指導提要には、「生徒指導とは、児童生徒が自身を個性的存在として認め、自分の中にあるよさや可能性に気づき、引き出し、伸ばすと同時に社会生活で必要となる社会的資質を身につけることを支える働きである。」と述べられている。教員一人一人が、日々の授業実践や校内授業研究、教育活動全体の中で、子どもたちの自発的・主体的に成長できる過程を大切にしながら、子どもたちが未来をひらく姿を追い求めていきたいと考える。

(2) 「みつめる」「かかわる」「つくりだす」力とは

令和3年度の現職教育では、半年に渡って全教師による対話を重ね、本校の子どもたちに育成したい資質・能力を設定した。はじめに、子どもたちの実態を見つめ直し、強みや弱みの分析を踏まえて、めざしたい子どもの姿を具体的にイメージした。

世の中には「〇〇力」という様々な力があふれかえっているが、これだけは本校の子どもたちに身に付けてほしいという願いを込めて、「みつめる」力、「かかわる」力、「つくりだす」力の3つを明確に打ち出すことにした。また、1年生から6年生までのどの発達段階の子どもたちにも分かりやすくなるように、あえて平仮名で、リズムよく口ずさめるよう配慮している。

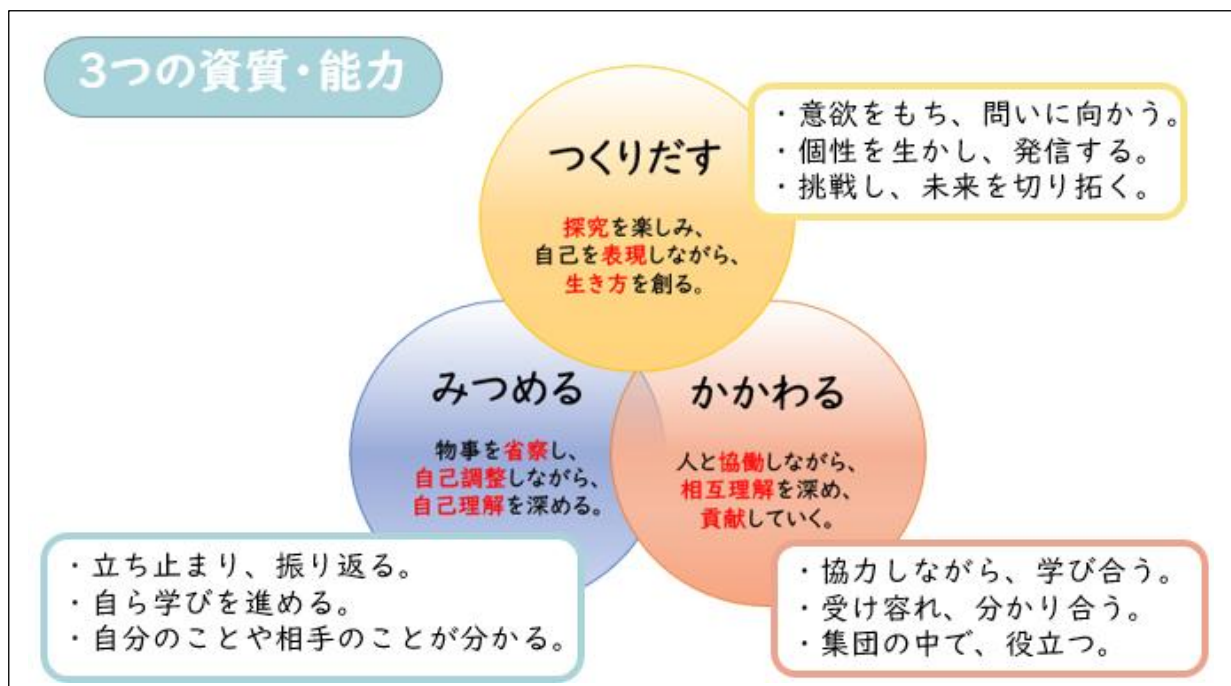
この3つの資質能力は、全教育活動を展開する中で育成していく。特に、「探究タイム」「マイプラン」「ふれあい活動」の取り組みは、3つの資質・能力を育成するにあたって本校独自の取組として実践している。そして、育まれた3つの資質・能力が「教科学習」「道徳科」「総合的な学習の時間」「特別活動」でも発揮される姿をめざしている。

それぞれの資質・能力について3つの視点で説明を加えたものが、次の一覧である。

| みつめる | かかわる | つくりだす |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・立ち止まり、振り返る。 (省察) ・自ら学びを進める。 (自己調整) ・自分のことが分かる。 (自己理解) | <ul style="list-style-type: none"> ・協力しながら、学び合う。 (協働) ・受け容れ、分かり合う。 (相互理解) ・集団の中で、役立つ。 (貢献) | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲をもち、問いに向かう。 (探究) ・個性を生かし、発信する。 (表現) ・挑戦し、未来を切り拓く。 (生き方) |

昨年度から、自分のことだけでなく、相手のことも理解し、互いに尊重することができるよう「かかわる」の「相互理解」の部分もさらに大切にしていきたいと考えている。引き続きこの3つの資質・能力を育てていけるように研究を進め、リフレクションを積み重ねることで、それぞれの項目においての具体的な子どもたちの姿を明らかにする。

今までの取り組みで、子どもたち一人一人が少しずつ主体的に活動できるようになってきている。3つの資質・能力の往環を意識することで、ともに新しい考えや方法をつくり出す「未来をひらく北部っ子」を育成したい。



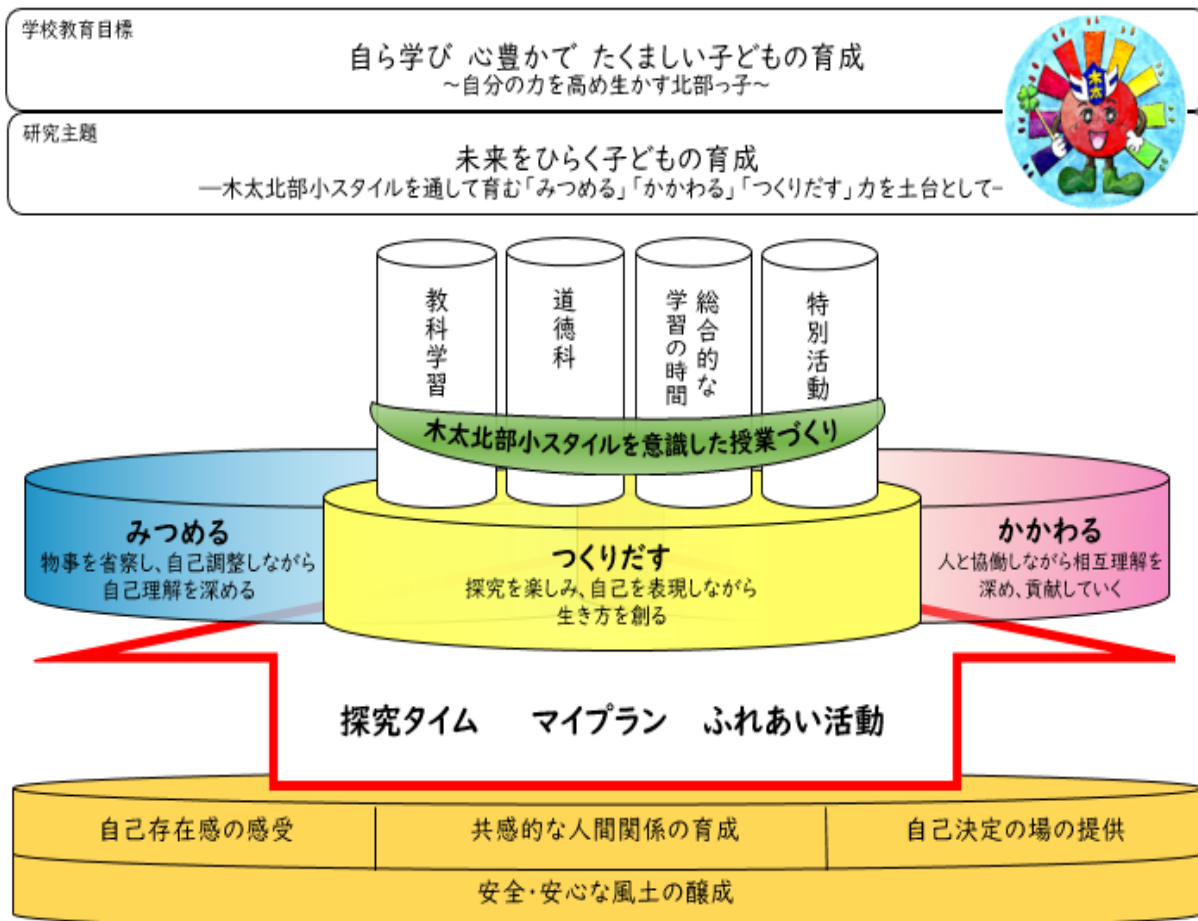
(3) 「木太北部小スタイル」に基づく授業改善について

教員一人一人が意識して「みつめる」「かかわる」「つくりだす」力を育むために、授業で大切にしたい8つの視点を「木太北部小スタイル」として実践を積み重ねている。

- ① 主体的に問題や課題を発見
教材や単元・題材との出会い方を工夫することで、単元を貫く問いを設定できるようにする。
- ② 自己の目標を選択・設定
子どもが自分自身で選ぶ・決める場を設定することで、子どもの主体性を発揮できるようにする。
- ③ 自分の考えをもち表出
自分なりの考えをもち、説明できることを大切にすることで、こだわりをもって取り組めるようにする。
- ④ 可視化された思考・操作で知識を再構成
子どもの考え方を板書や教具等で整理することで、単元・題材を通した学びの深まりに気付くことができるようにする。
- ⑤ 必要感のある対話で練り上げ、考えを広げ深める
児童が何について話すのか対話の内容を整理し、多様な考え方を出し合い判断できるようにする。
- ⑥ 納得解をつくる
話し合いをすることで、単元・題材のまとめとして、自分の考えやクラスにとって納得のいく考えを更新したり、まとめたりできるようにする。
- ⑦ 振り返り
具体的な振り返り、授業途中での自分の考え方の振り返りをするすることで、児童自らが自身の伸びや更なる目標や課題を実感できるようにする。
- ⑧ 実社会との関わりや社会参画
学習内容や学習の成果を実社会や実生活と結びつけることで、学ぶ良さや意義、自分の社会での役割などを実感できるようにする。また、社会の一員として主体的に課題を見出したり、よりよく生きようとしたりする意欲をもてるようにする。

この8つの視点を、授業研究はもちろん普通の授業で大切にし、積み重ねる。研究授業を行う際は、8つのうちどの視点を特に大切にするか検討し、授業後の討議で、成果と課題を振り返り更に研究を深めていく。

【研究構想図】



2 研究仮説と検証方法

(1) 研究仮説

全教育活動において、教師も子どもも「みつめる」「かかわる」「つくりだす」力を意識し、それらを育成しようと全教職員が教育活動全体の中で、日常的に指導や支援を継続する。友だちとの関わりの中で協力したり認め合ったりしながら、新しい自分に気付いたり、新しい解決方法を見つけたりするなどすることで、新しい道を切り拓く「未来をひらく子ども」が育成できるであろう。

(2) 検証方法

教師アンケート（7月、12月）、児童・保護者アンケート（7月、12月）、全国学力・学習状況調査（4月）、県学習状況調査（11月）、教職員の見取り、教師の振り返り（3月）

4 研究内容

令和5年度からは、木太北部小スタイルを通して、研究を深めてきた。また、毎週1回、朝の活動で「探究タイム」を実施し、一人一人の興味・関心に基づく課題を設定して、自分のペースで自ら学びを進めていく、いわゆる「個人追究」の時間を設けた。「探究タイム」の取り組みは、香小研生徒指導部会で大切にされている研究視点の中の、「自己存在感を与える」「自己決定の場の設定」に大きく関わると考えられるので、今年度も引き続き、研究を深める。

さらに、朝の活動の「マイプラン」を引き続き実施する。「マイプラン」は、学校行事や委員会の取り組みなどを子どもたちと共有し、予定をもとに計画めあてを設定する活動である。マイプランの活動を通して、自己調整能力を高めたり、主体的に考えて動くことができたりする児童を育てる。

また、「自己有用感を育む体験活動の推進（社会性・コミュニケーション能力の育成）」のための取り組みとして、今年度はさらに、縦割り班によるふれあい活動や、生活科、総合的な学習の時間、特別活動にも力を入れて研究を進めている。今年度も子どもの主体性や自己実現を全ての教育活動のよりどころとして大切にす。

5 研究方法

- (1) 教育課程を見直し、子どもが主体性を発揮できる活動を位置付ける。(探究タイム、マイプラン、ふれあい活動) 実践を積み重ねながら、部会別に効果を検証し、改善していく。
- (2) 全教職員で、木太北部小スタイルを意識した授業実践を行う。特に、年間で各学年1本ずつ研究授業を行い、意図した木太北部小スタイルの授業における手立ての有効性を検証する。

また、生徒指導に深くかかわる手立てや支援を学習指導案上に明記し、その効果を検証し、改善を図る。(自己存在感を与える→【存】自己決定の場の設定…【決】共感的人間関係を育てる…【共】自己有用感を育む体験活動の推進…【有】)